

2020年度 決算説明会 資料

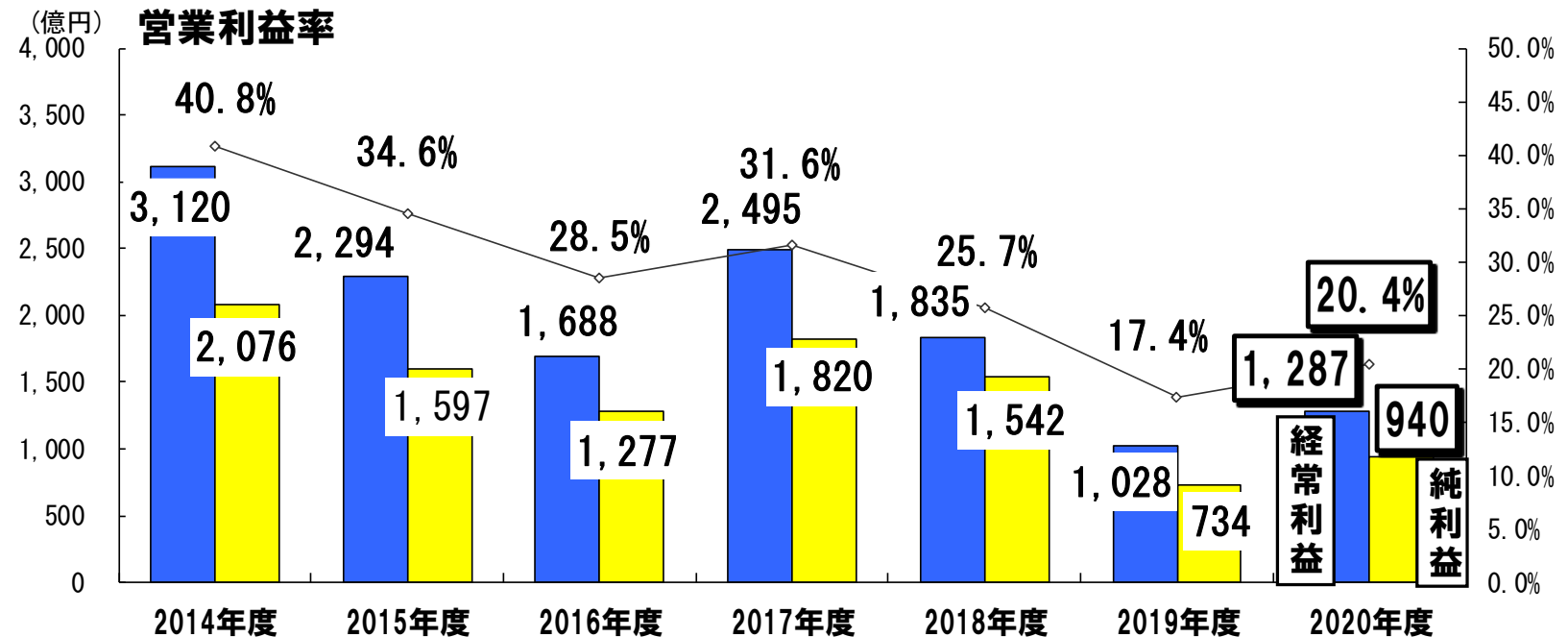
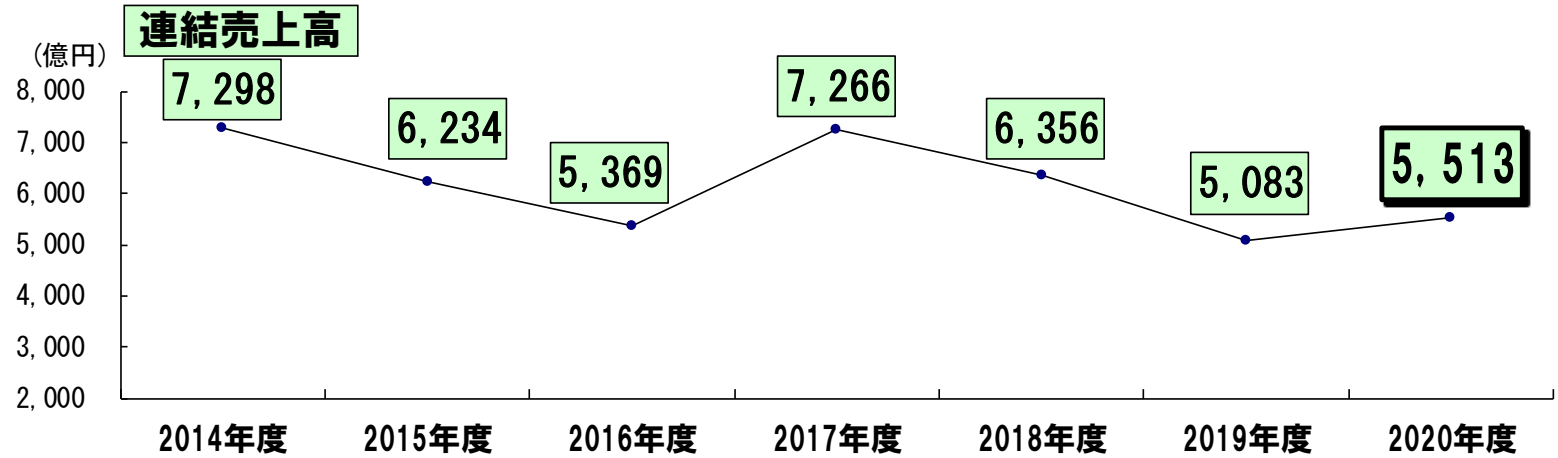
ファナック株式会社

本資料に含まれている見直しには、主要市場における製品の需給動向、競合状況、経済情勢その他に不透明な面があり、実際と異なる可能性があることをご承知おき願います。

2020年度 連結実績

(単位：億円)	2019年度 実績	2020年度 予想	2020年度 実績	増減率 前年比	増減率 前回予想比
売上高	5,083	5,323	5,513	+8.5%	+3.6%
売上原価 【売上原価率】	3,261 64.2%	3,378 63.5%	3,493 63.4%	+7.1%	+3.4%
営業利益 【営業利益率】	883 17.4%	1,058 19.9%	1,125 20.4%	+27.4%	+6.3%
経常利益 【経常利益率】	1,028 20.2%	1,195 22.4%	1,287 23.4%	+25.2%	+7.7%
特別損益	-20	-	-	-	-
純利益 【純利益率】	734 14.4%	882 16.6%	940 17.1%	+28.1%	+6.6%
為替レート					
円/1USD	108.74	104.59	106.06	-2.5%	+1.4%
円/1EUR	120.82	121.78	123.70	+2.4%	+1.6%

連結売上高・損益 年間推移

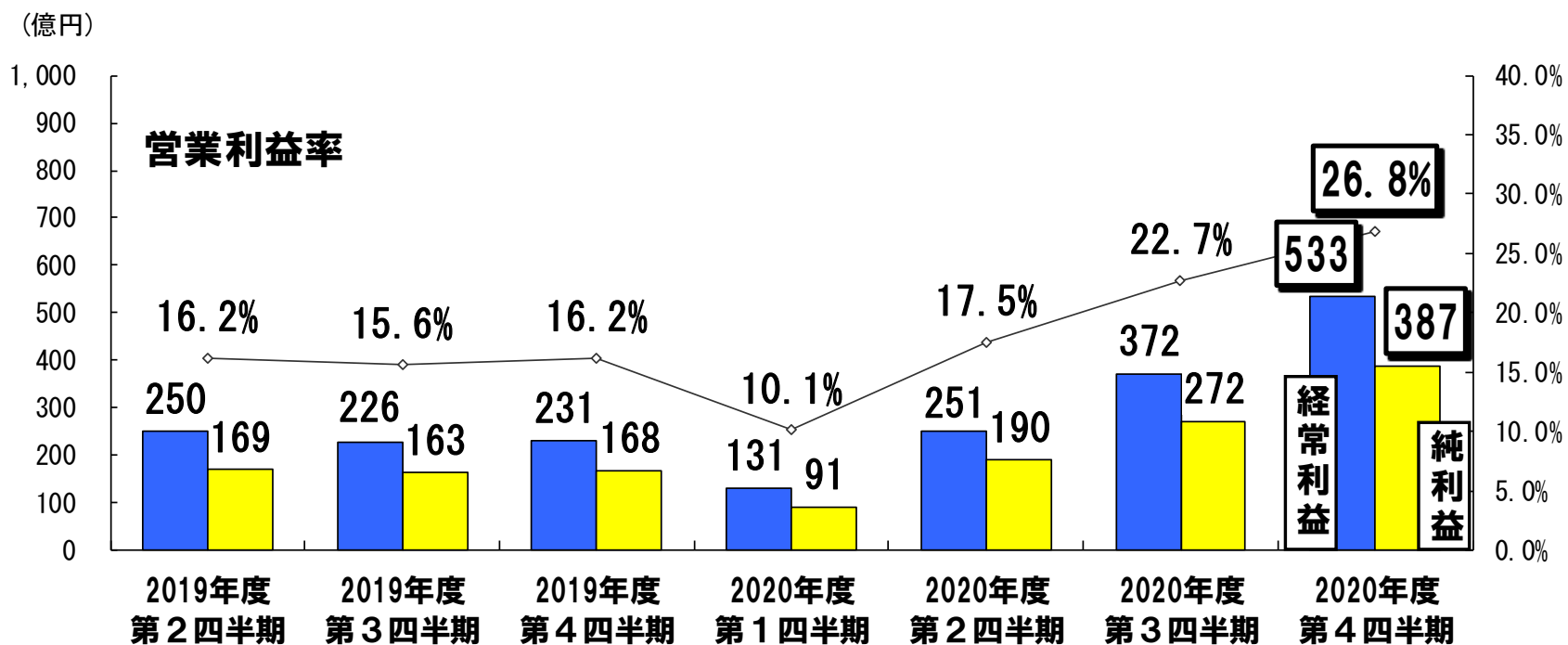
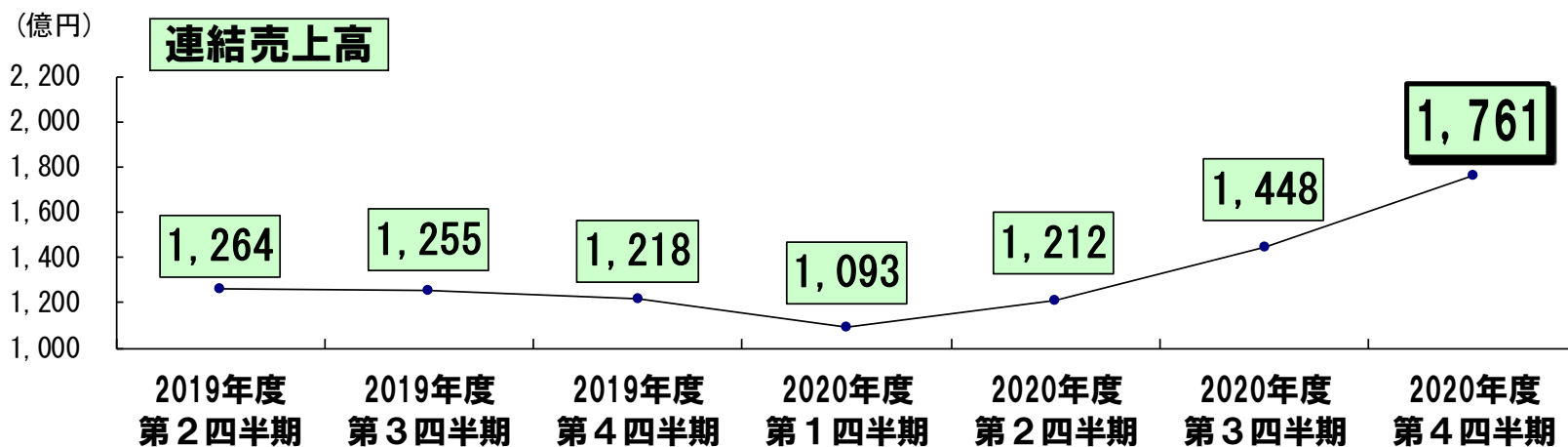


純利益＝親会社株主に帰属する純利益

2020年度 第4四半期(3ヶ月) 連結実績

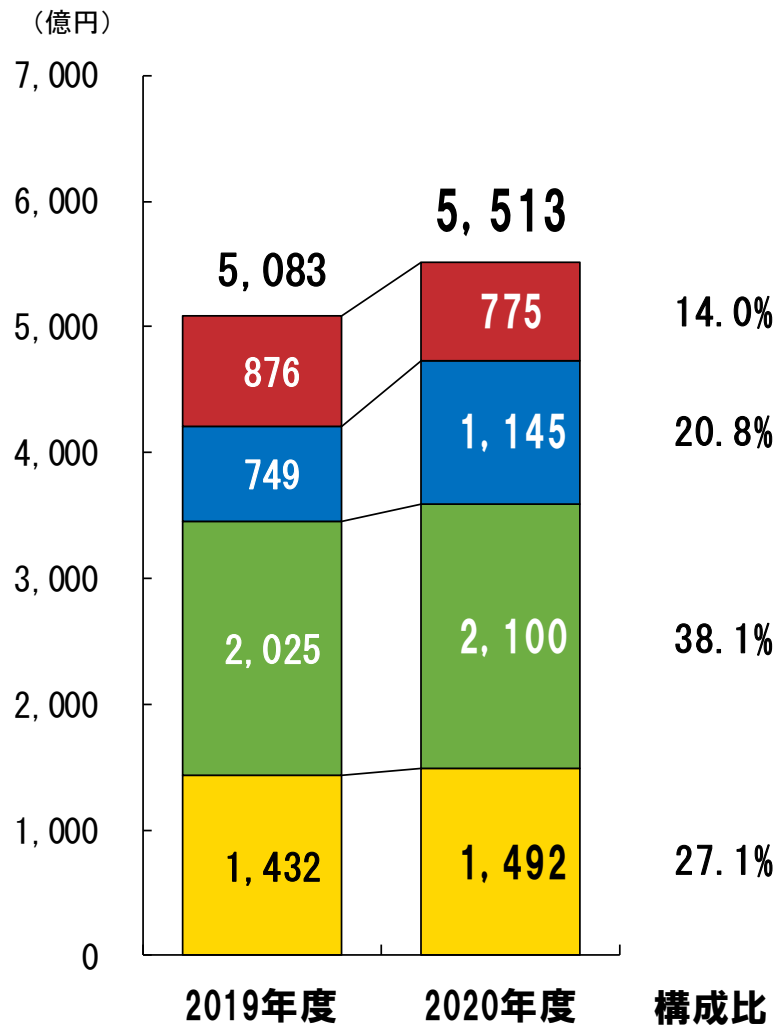
(単位：億円)	2019年度 第4四半期 (1～3月)	2020年度 第3四半期 (10～12月)	2020年度 第4四半期 (1～3月)	増減率 前年同期比	増減率 前四半期比
売上高	1,218	1,448	1,761	+44.6%	+21.6%
売上原価 【売上原価率】	792 65.0%	885 61.1%	1,041 59.1%	+31.5%	+17.6%
営業利益 【営業利益率】	197 16.2%	329 22.7%	473 26.8%	+139.4%	+43.4%
経常利益 【経常利益率】	231 19.0%	372 25.7%	533 30.3%	+130.8%	+43.5%
純利益 【純利益率】	168 13.8%	272 18.8%	387 22.0%	+129.5%	+42.0%
為替レート					
円/1USD	108.92	104.51	105.90	-2.8%	+1.3%
円/1EUR	120.11	124.54	127.69	+6.3%	+2.5%

連結売上高・損益 四半期推移

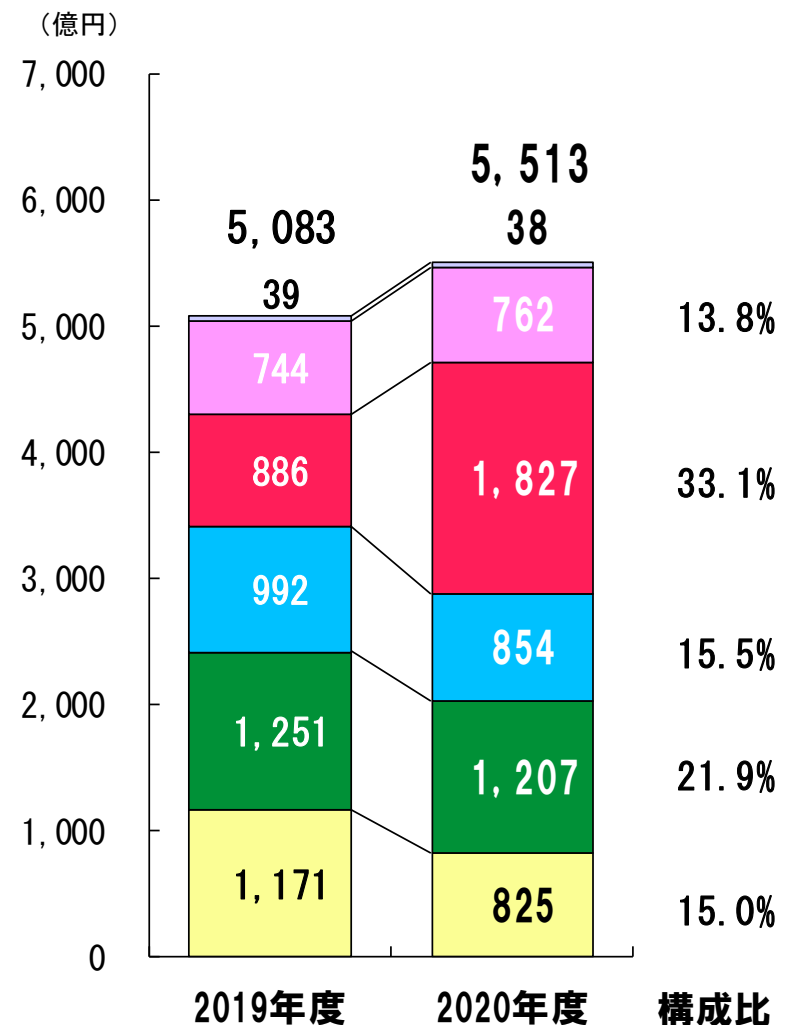


純利益＝親会社株主に帰属する純利益

連結 部門別・地域別売上高 年間推移

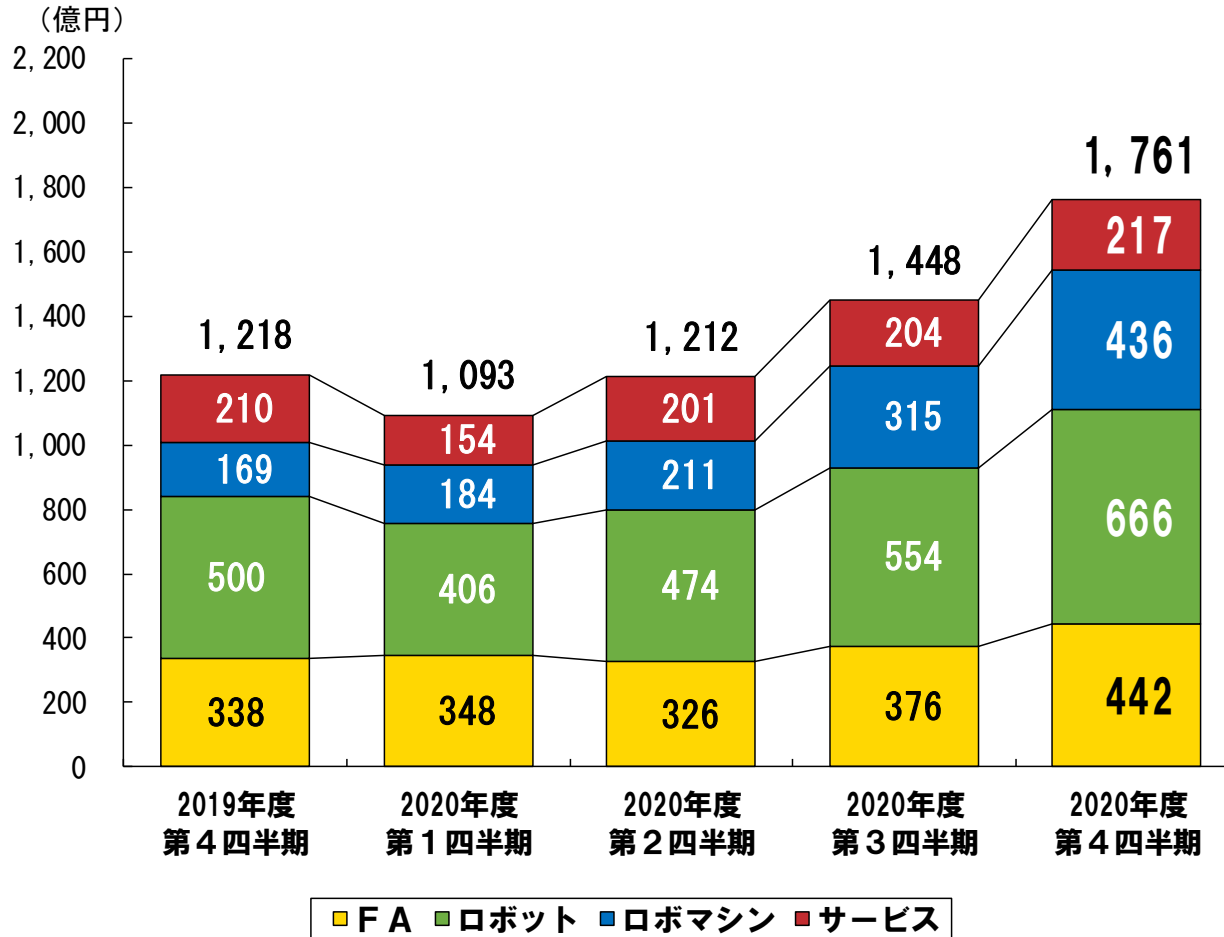


■ FA ■ ロボット ■ ロボマシン ■ サービス



■ 国内 ■ 欧州 ■ アジア (中国以外) ■ 米州 ■ 中国 ■ その他

連結 部門別売上高



第4四半期（3ヵ月）の状況〔2020年度第3四半期との比較〕

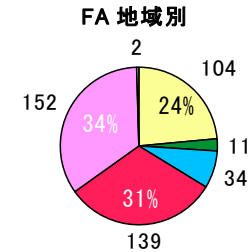
FA →国内、韓国で大幅に増加。欧州、台湾、インドで増加。

ロボット →米州、中国で大幅に増加。国内、欧州で増加。

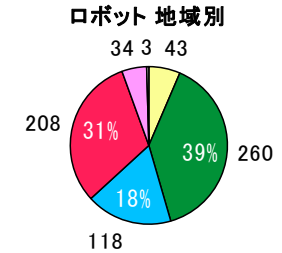
ロボマシン→中国、インドで大幅に増加。国内、欧州で増加。

2020年度第4四半期

21.6%
6.4%



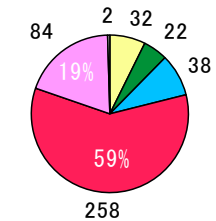
38.6%



20.3%

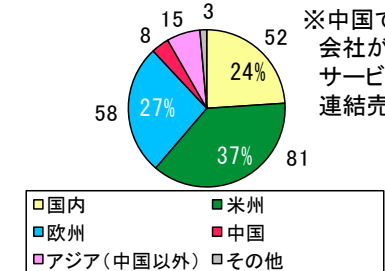
ロボマシン 地域別

17.4%



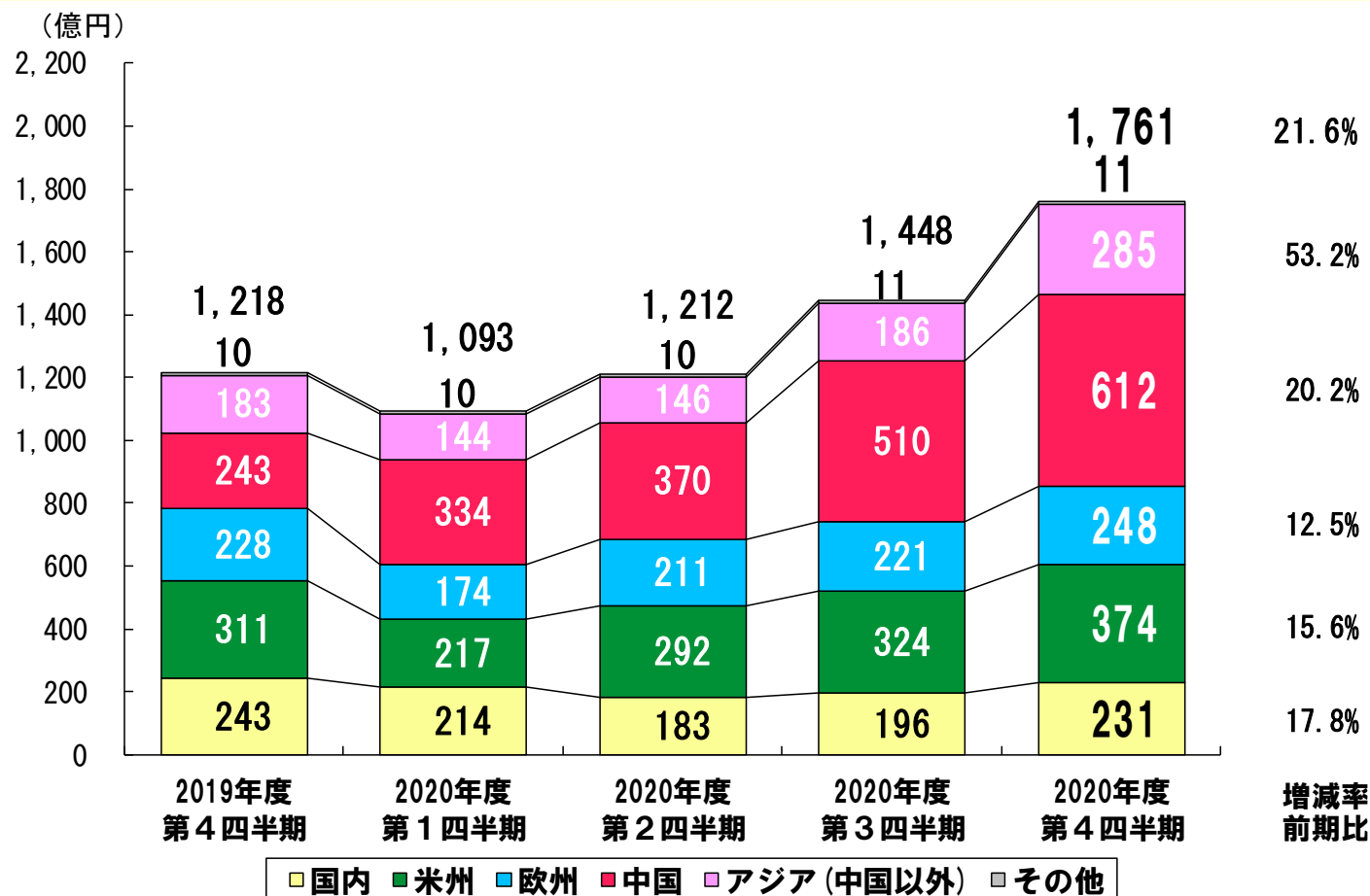
増減率
前期比

サービス 地域別



※中国で持分法適用
会社が行っている
サービスの売上高は
連結売上に含まない

連結 地域別売上高



第4四半期（3ヵ月）の状況〔2020年度第3四半期との比較〕

国内 →FAが大幅に増加。ロボット、ロボマシンが増加。

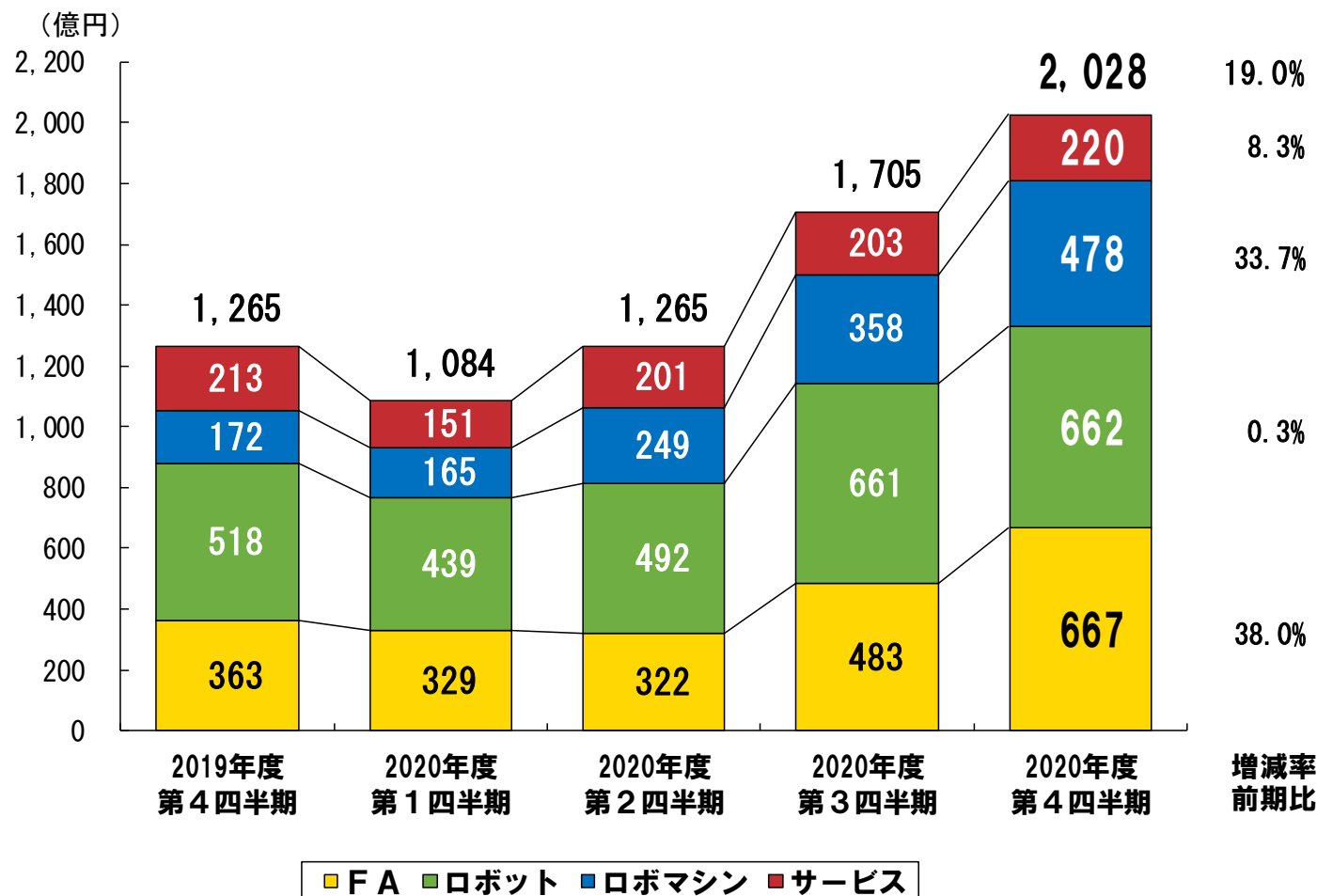
米州 →ロボットが大幅に増加。

欧州 →FA、ロボット、ロボマシンいずれも増加。

中国 →ロボット、ロボマシンが大幅に増加。

アジア (中国以外) →FAが韓国で大幅に増加、台湾、インドも増加。ロボマシンがインドで大幅に増加。

連結 部門別受注高



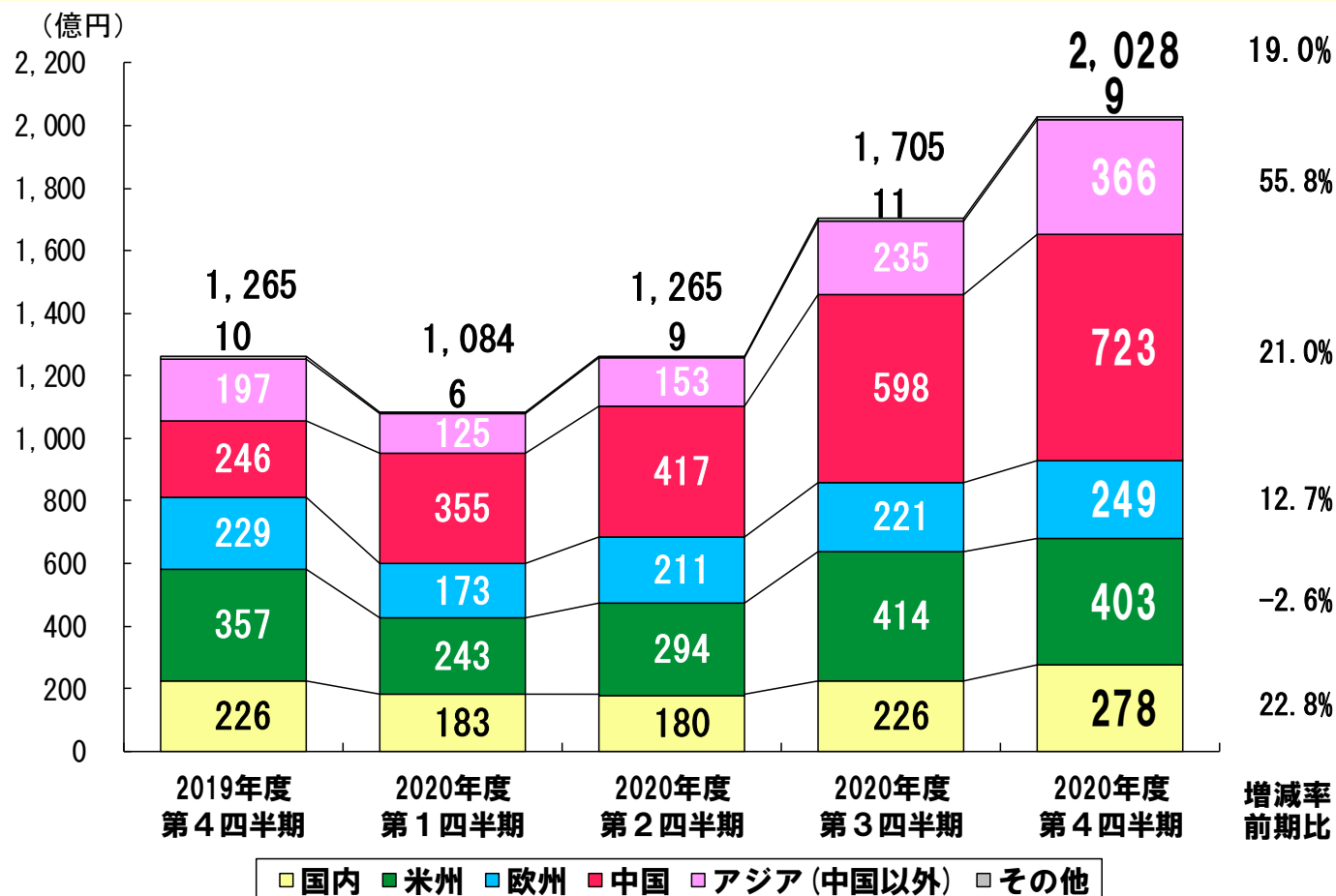
第4四半期（3ヵ月）の状況〔2020年度第3四半期との比較〕

FA →国内、中国、韓国、台湾、インドで大幅に増加。欧州で増加。

ロボット →国内、欧州、中国で増加。米州で減少。

ロボマシン→中国、インドで大幅に増加。国内、米州、欧州で増加。

連結 地域別受注高



第4四半期（3ヵ月）の状況〔2020年度第3四半期との比較〕

国内 →FAが大幅に増加。ロボット、ロボマシンが増加。

米州 →ロボットが減少。ロボマシンが増加。

欧州 →FA、ロボット、ロボマシンいずれも増加。

中国 →FA、ロボマシンが大幅に増加。ロボットが増加。

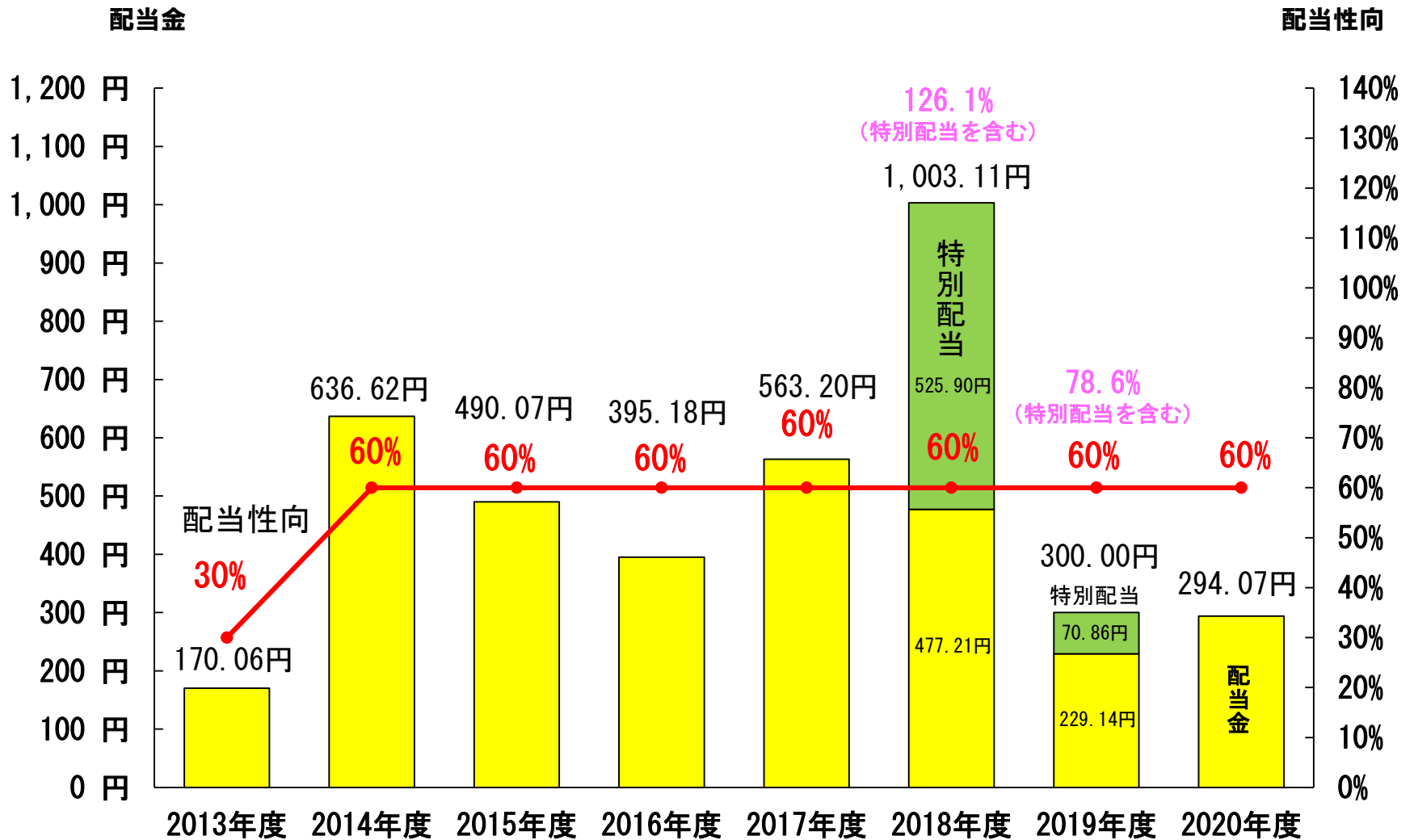
アジア (中国以外) →FAが韓国、台湾、インドで大幅に増加。ロボマシンがインドで大幅に増加。

(単位：億円)	2019年度	2020年度	前年比
設備投資額	705	186	-519
減価償却費	459	451	-8
研究開発費	513	469	-44

連結 通期業績予想

(単位：億円)	2020年度	2021年度			増減率 前年比
	通期実績	上期予想	下期予想	通期予想	
売上高	5,513	3,482	3,089	6,571	+19.2%
売上原価	3,493	2,060	1,951	4,011	+14.8%
【売上原価率】	63.4%	59.2%	63.2%	61.0%	
営業利益	1,125	877	607	1,484	+31.9%
【営業利益率】	20.4%	25.2%	19.7%	22.6%	
経常利益	1,287	974	671	1,645	+27.8%
【経常利益率】	23.4%	28.0%	21.7%	25.0%	
純利益	940	708	497	1,205	+28.2%
【純利益率】	17.1%	20.3%	16.1%	18.3%	
為替レート					
円/1USD	106.06	105.00	105.00	105.00	-1.0%
円/1EUR	123.70	125.00	125.00	125.00	+1.1%

配当推移



新型協働ロボット CRXについて

安全、高信頼性、親しみやすい新型協働ロボット



CRX-10iA

CRX-10iA/L

安全

- 人に触れるとすぐに止まる高い安全性

高信頼性

- 長年培った高い信頼性技術

親しみやすさ

- クレーンいらすの簡単設置
- 直感的な操作で簡単教示
- 各社のグリッパも簡単接続

- 2019年12月の国際ロボット展で初出展以降、全世界から高い関心と引き合い
- 2020年6月から出荷開始

CRXの需要拡大

- ロボットが初めての人でもすぐに使える**敷居の低さ**が好評
- 人とロボットが作業を分担する**柔軟かつシンプル**な自動化を実現
- コロナ禍で人の一部をCRXに置き換える**3密対策**にも有効



機械加工



溶接

需要拡大に伴い、2021年度内に昨年の3倍の生産能力まで増強



THE ROBOT AWARD
第9回ロボット大賞

経済産業大臣賞



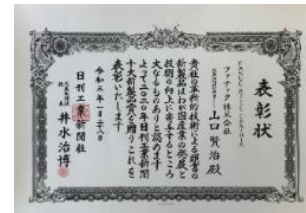
日本経済新聞社主催
2020年日経優秀製品・
サービス賞

日経産業新聞賞



第63回日刊工業新聞社

十大新製品賞
本賞



ロボカットについて

ワイヤカット放電加工機「ロボカット」の最新機種を発表



ROBOCUT α -C600iC

高い加工性能

- 機械構造の大幅な強化によるピッチ加工精度と真円加工精度の向上
- 放電装置の改良と放電制御iPulse3による加工面品位の向上

高い稼働率

- 自動結線AWF3による連続無人運転を実現
- 日常保守作業をサポートする消耗品管理機能と保守ガイダンス機能

使いやすさ

- 高性能表示ユニットPANEL iH Proの採用
- 高速、高精度、高品位加工をサポートする加工条件の簡単調整機能

- 2020年12月 JIMTOF2020 Onlineで発表
- 2021年 1月 α -C400iC、 α -C600iCの量産出荷を開始

当社は、本日開催の取締役会において、2021年6月24日開催予定の当社第52回定時株主総会で承認されることを条件として、現在の「監査役会設置会社」から「監査等委員会設置会社」に移行する方針を決議いたしました。

（１）移行の理由

当社では、従来から「厳密と透明」の基本理念のもと、コーポレート・ガバナンスの充実を着実に図ってまいりました。今般、監督機能と執行機能の分離を進めるなかで、取締役会の監督機能を一層強化し、経営上の意思決定をより迅速化するため、監査等委員である取締役により構成される「監査等委員会」を備え、取締役会から取締役への業務執行の決定権限委譲の拡大が可能な監査等委員会設置会社に移行し、更なるコーポレート・ガバナンスの充実と企業価値の向上を図ることとするものです。

（２）移行の時期

2021年6月24日開催予定の当社第52回定時株主総会において、必要な定款変更等について承認をいただき、監査等委員会設置会社に移行する予定です。